

# 臨床推論演習Ⅲ

科目責任者 小 橋 元  
学年・学期 4 学年・後期

## I. 前 文

医師として、目前に起こった事例・症例の要点を把握し、その問題点を抽出、分析して、解決への方策を推測、固定する能力は不可欠なものである。本講座では、様々な臨床問題を題材として今までに習った知識を用いた臨床推論の演習を行う。とくにシラバスはないが、学生は、講義計画表に記載されている国家試験の問題番号を中心に予習をしていくこと。この演習はCBTに備えての知識の整理に役立つのみならず、5年生から始まる臨床実習や6年生の学習にも極めて有用である。ぜひ、推論することのワクワク感や達成感といった醍醐味を感じてほしい。

## II. 担当教員

公衆衛生学	(小 橋 元)
内科学 (リウマチ・膠原病)	(倉 沢 和 宏)
小児科学	(吉 原 重 美)
内科学 (消化器)	(入 澤 篤 志)
微生物学	(増 田 道 明)
病理診断学	(石 田 和 之)
生化学	(杉 本 博 之)
内科学 (内分泌代謝)	(麻 生 好 正)
心臓・血管外科学	(福 田 宏 嗣)
薬理学	(藤 田 朋 恵)
麻酔科学	(濱 口 真 輔)
麻酔科学	(山 口 重 樹)
救急医学	(小 野 一 之)
内科学 (心臓・血管)	(豊 田 茂)
総合診療医学	(志 水 太 郎)
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	(春 名 真 一)
内科学 (神経)	(鈴 木 圭 輔)
放射線医学	(楫 靖)
生理学	(神 作 憲 司)
内科学 (腎臓・高血圧)	(頼 建 光)
皮膚科学	(井 川 健)

## III. 一般学習目標

- (1) 重要な疾患を持つ患者の問題点を抽出・分析し、解決する能力を得る。
- (2) 上記の問題解決のための基盤となる知識を再確認する。
- (3) 臨床実習前に演習を行い、臨床実習の効果を高める。
- (4) 臨床推論能力を高め、6年生での国家試験を視野に入れた学習にスムーズに適応する。

## IV. 学修の到達目標

- (1) 各コマで与えられた症例について、問題点、病態生理、診断、治療などを理解する。
- (2) 知識の獲得と同時に、臨床推論の考え方・手順に触れ、慣れる。
- (3) 国家試験の臨床問題を自学・自習する習慣形式を行う。

V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	10	13	木	1	A-2医学知識と問題対応能力, A-3診療技能と患者ケア, B-1集団に対する医療, E-6放射線の生体影響と放射線障害	公衆衛生学 小橋 元	1
2		13	木	2	A-2医学知識と問題対応能力, A-3診療技能と患者ケア, B-1集団に対する医療, E-6放射線の生体影響と放射線障害	公衆衛生学 小橋 元	1
3		13	木	4	G-2-1) 発熱 114-A-20, 114-F-42, 115-D-41	小児科学 佐藤 雄也	1
4		13	木	6	G-2-10) 脱水 111-C-28・29, 111-D-46, 113-D-75	内科学(腎臓・高血圧) 大平 健弘	1
5		14	金	1	G-2-2) 全身倦怠感(統合型講義) 肝炎ウイルスのABCDE	微生物学 増田 道明	1
6		14	金	2	G-2-2) 全身倦怠感(統合型講義) 112-A-50, 112-B-34, 115-D-68	内科学(消化器) 飯島 誠	1
7		14	金	3	G-2-2) 全身倦怠感(統合型講義) 112-F-58, 115-D-69	病理診断学 石田 和之	1
8		14	金	4	G-2-2) 全身倦怠感 113-D-23, 114-F-63, 115-D-55	生化学 杉本 博之	1
9		14	金	5	G-2-1) 発熱 114-A-20, 114-F-42, 115-D-41	内科学(リウマチ・膠原病) 前澤 玲華	1
10		17	月	1	G-2-8) けいれん 113-A-37, 113-E-31	小児科学 今高 城治	1
11		17	月	2	G-2-4) 体重増加・減少 113-A-72, 114-A-44, 114-A-48	内科学(消化器) 眞島 雄一	1
12		17	月	3	G-2-4) 体重増加・減少 115-D-69, 115-F-74	生化学 杉本 博之	1
13		17	月	4	G-2-5) ショック 113-D-25, 113-F-48, 115-A-40	心臓・血管外科学 小西 泰介	1
14		17	月	5	G-2-6) 心停止 114-A-69, 114-C-69~71, 115-F-40	心臓・血管外科学 小西 泰介	1
15		17	月	6	G-2-7) 意識障害・失神 113-D-34, 114-E-38, 115-A-69	内科学(心臓・血管) 南 健太郎	1
16		18	火	1	G-2-5) ショック 111-G-58, 115-A-38, 115-F-60~62	薬理学 相澤 直樹	1
17		18	火	2	G-2-5) ショック 112-C-30, 115-A-62	麻酔科学 濱口 眞輔	1
18		18	火	5	G-2-7) 意識障害・失神 114-B-41~44, 115-E-45	総合診療医学 富山 周作	1
19		18	火	6	G-2-2) 全身倦怠感, 115-A-74 G-2-4) 体重増加・減少, 114-A-42, 114-B-47・48	内科学(内分泌代謝) 城島 輝雄	1
20		19	水	1	G-2-9) めまい 111-D-28, 111-F-21	耳鼻咽喉・頭頸部外科 春名 眞一	1
21		19	水	2	G-2-6) 心停止 113-D-18, 115-B-28, 115-F-62	救急医学 和氣 晃司	1
22		19	水	3	G-2-8) けいれん 113-C-37, 113-D-22, 113-E-31	内科学(神経) 藤田 裕明	1
23		19	水	4	G-2-8) けいれん, 113-B-31, 113-E-31 G-2-10) 脱水, 113-A-53, 113-D-23, 113-F-64, 114-B-44, 114-D-71, 115-B-45	薬理学 藤田 朋恵	1
24		19	水	5	G-2-9) めまい 112-A-30, 113-A-69, 114-B-38	放射線医学 桑島 成子	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
25	10	19	水	6	G-2-12) 発疹 113-A-19, 113-E-30, 115-A-21	皮 膚 科 学 健 井 川	1
26		20	木	1	G-2-7) 意識障害・失神 113-A-35, 113-B-37, 114-A-46	生 理 学 学 作 野 元 謙	1
27		20	木	2	G-2-12) 発疹 115-B-40, 115-D-44, 115-D-47	小 児 科 学 福 島 啓太郎	1
28		20	木	3	G-2-11) 浮腫 113-E-14, 115-A-26, 115-A-72, 115-A-75	日光医療センター 糖尿病・内分泌内科 中 谷 祐 己	1
29		20	木	5	G-2-3) 食思(欲)不振 110-G-56, 113-D-70	内科学(消化器) 入 澤 篤 志	1
					臨床推論演習Ⅲ定期試験		

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

原則として、定期試験（80%）、講義中の小テスト・レポート、出席状況等（20%）によって総合評価する。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

今までに各科で指定した教科書および推薦図書。

#### VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。ただし事前に担当各科の秘書を通じ、アポイントをとること。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートのフィードバックは課題による。

## XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習としては、系統講義の復習。（所要時間の目安：30分）

事後学習としては、講義内容に沿った国家試験の臨床問題やCBT問題演習で、知識を確実なものとする。（所要時間の目安：30分）

## XII. コアカリ記号・番号

講義テーマ参照。